

第11回 JAL解雇撤回国民共闘総会開かれる



支援共闘会議発足から一〇年、二月一七日後六時半よりWEBによる「JAL不正解雇撤回国民共闘会議第一回の総会」が開催されました。争議団含めて約一〇五名の参加でした。

・一〇年の総括が必要。原告団

（別掲）の後、津恵事務局長による経過報告と今後の取り組みについて提案されました。

その後の討論では各地域での活動報告、意見および要望などが述べられました。

◇ つの要因である。闘いに休憩はない。一〇年を経過した今、争議の完全解決はより一層切実である。支援者と原告が知恵を出し合い、力を合わせて結集していくなければ強大な組織や権力に太刀打ちできない。原告の納得のいく解決のために、次回結集する場は全面解決集会にしようではないか。

・ 会社は引き延ばし自滅を待つ
ているのではないか？早期解決
にはどうすべきか議論してほし
い。

・株主総会行動に全国展開すべきではないか。国會議員の取り組みが前進しているが、国會議員に対し支援弁護士一〇〇〇〇人と事務局と一緒に真剣に働きかけてもらいたい。政治的に解決する以外にない。

TEL03(6423)7878
メール
sasaerukai@emo.n.plala.or.jp

労働組合・支援者が総括を一
致させ團結を獲得する必要が一
ある。特別協議ではなく団交
を申し入れ、全国的宣伝を。
応じなければ労働委員会に。
○○○名の支援弁護士のアピー
ルを出してほしい。
・今の流れでは解決しない。一
〇年の総括を正面から行い教訓
を導き大きな組織を作つて全国
統一運動を提起してほしい。大
宣伝行動や
大勢が集まる
てきたが、解
決が実現でき
ていない。

（一）一頁につづく

(内田客乗団長) 雇用を軸に解決と会社は言つたが、客室乗務員争議団には未だ何も回答がない。会社は決断力がない。

男女差別当たり前の職場で結婚・妊娠したら働き続けられなかつた中で闘つてきたものいう客室乗務員が二〇一〇年狙い撃ちされた。総会の方針に加えて、ジェンダー平等を高らかに掲げて全国の女性達とより一層連帶し、解雇問題、現場の客室乗務員の実態も広く訴え改善していきたい。

「何としても解決する」決意で原告団一同奮闘する。

（一〇）年の振り返りは争議団でも行つていて、いろいろな意見がありますが、それも踏まえて今後も闘つていく。一〇年頑張ったことも確認している。目先にとらわれやすいが、解雇の狙いを頭において闘つていくことを確認している。

あらゆるツールを使っていきたい。国会議員は率直に私たちの解雇問題を受け入れてくれている。納得いき解決めざして頑張る。

〔支える会運営委員会として熱く御礼申し上げます〕

事務局長 柚木康子

コロナ禍で物販活動もなかなか難しいなかで、J A L 争議団に対する支援の年末カンパなど、多くのご協力をいただきました。

1月末までのカンパは2,005,000円となりました。カンパ金は12月、1月、2月と3回にわたり、寄せられた声と共に争議団にお渡しました。声の一部を紹介します。

・厳しい状況下での闘争、大変ご苦労さんです。オホーツク管内でも、具体的な支援行動が取り組めず申し訳なく思っ

ています。早急に少額ですがカンパ送金致します。2021年こそ、解雇当事者が主体の運動を展開し納得した解決を勝ち取りましょう

- ・お疲れ様です。追い詰めながら、なかなか解決しないもどかしさはニュースを見ていて感じます。いまでは、日本を代表するような争議になっていると思います。よくがんばられているみなさんの呼びかけに、年金暮らしのわずかなことしかできませんが、今日お送りしました。がんばってください。

- ・長期にわたる闘争に心が痛みます。少額で申し訳ありません。本当はひとけたうえで送りたい！

吉永共同代表（MIC議長）
一〇年たつて一〇〇人以上の結集はすごい熱意だ。批判やお褒めを重ねていくことが重要。ジエンダー問題は数十年闘いで続けて今、山が動いてきた。かわらないと思うことも変わることが世の中を変える。共に信じて共闘していきたい。



一、国土交通省前で宣伝
(二二時～二三時)
一〇年前の一月九日はJALからの解雇予告通知が発せられた日です。争議解決を求める半日行動がJAL解雇撤回国民共闘主催で行われました。

行動
1
月
9
日

◆内田客乗団長
ベテラン乗務員を解雇対象と
して安全は守れるのか！

◆神奈川労連宮垣さん

国交省は航空の安全と公共性を守るのが使命。この整理解雇は国家的な解雇だ。安全には経験が必要。民事不介入というがそれで安全は守れるのか！

◆JAL闘争を支える熊谷の会
丸山事務局長
赤坂社長の言葉はその場かぎりだ。社長の発言はそんなに軽いのか。長い経験と知識を持つた労働者を追い出す卑劣の行為を利するまで連帯して戦います！

◆支援共闘初代共同代表毎日新聞東海林さん
整理解雇を元に戻すという当たり前のことだがJALはできないう。コロナ禍の今だからこそこの争議は勝たなければいけない。多くの労働者の支えであり期待の星だ、必ず勝ちましょう！

◆支援共闘中岡共同代表（全労協事務局長）
支援共闘は四つの要求で闘つてきたが、解決の糸口さえ見えない。国交省は当事者ではないと言わんばかりだが、紛れもない当事者だ。

◆山口乗員団長
整理解雇でなく物言う労働者ではないと言える立場はない。解雇と安全は守ると言い、国に支援を求めている。国交省は関係ないと言える立場はない。解雇するまで粘り強く闘う。

◆内田客乗団長
JAL再生は国交省主導で行われた。労使で話し合え、介入はしないは責任放棄。争議に

内田客乗団長発言
客室乗務員は、以前は三〇歳定年、結婚すると退職だった。男女差別雇用を是正させるために闘ってきた者、非正規化の流れの中で非正規化に反対して闘ってきた者が解雇のタグゲットになつた。物言う女性が封じ込められたことは明白である。

(三頁につづく)

【両労組委員長あいさつ】

◇日本航空乗員組合柴田委員長

新型コロナウイルス感染の拡大により、航空業界は深刻なダメージを受けているが、十分な手元資金が確保されているとして「雇用と賃金の心配ない」と経営はいうが、ことある度に2010年の経営破綻が脳裏をよぎる。統一要求のもとに粘り強い交渉の中特別協議が開催され、乗員組合からは原告三名の地上職採用が実現し、さらに3名の採用面談が進行中である。地上職採用凍結、余剰人員の他社への出向などが行われている中で、嘱託採用とはいえJAL本体への採用実現は、大きな成果である。

また、ZIPAIR乗務職採用では、原告ではないが、被解雇者から1名、その他元JAL乗員からも5名以上の採用が実現している。これも統一要求への回答であり、これまで皆さんと共に歩んできた運動の成果であると言つて間違いない。

今後も、希望者の地上職採用を進めていくとともに、引き続き、乗務職としての職場復帰、金銭面での解決といった課題にも向き合い、1日も早い解雇問題の解決に向けて取り組みを進めていきたい。

◇キャビンクルーユニオン古川委員長

長引くコロナ禍により、客室乗務員の本来業務が大幅に減らされ、フライトは月に約4から5日、それ以外は自宅待機・テレワークが一年近く続いている。

CCUでは、コロナ対策を充実させ、安全・安心の提供を要求し、航空内の組織と連帯しながら、国交省、厚労省、定期航空協会にも働きかけを行ってきた。CCU独自の30項目以上の要求がこの1年で前進したのは職場と一体となって取り組んだ成果である。

6000名のCAの内200名を切る組織数だが、アンケートでは1000名を超える人が参加し、賃金ダウン、生活実態、将来不安等の声が寄せられた。

10年で破綻も整理解雇も知らない人が増え、当時を知っている人は一割だ。日航内からの圧力を高めるためには、原告と現役が一体となり、外と内の取り組みを結ぶ運動を繰り広げなければならない。会社との交渉では、社長発言に責任を持つて対応するよう厳しく追求していく。株主総会では「解決した」と報告できるよう尽力したい。

二、厚労省で記者会見

JAL国民共闘中岡共同代表（全労協事務局長）と共に争議団から八名が参加、一二社、一四名の記者が出席し活発な質疑応答がありました。

又、この記者会見については毎日新聞にも大きく掲載されました。JAL国民共闘中岡共同代表（全労協事務局長）と共に争議団から八名が参加、一二社、一四名の記者が出席し活発な質疑応答がありました。

したことを国交省に問いたい。JAL再生は国交省主導で行われた。労使で話し合え、介入はしないは責任放棄。争議に



◆ 争議解了へ賛同する乗客団体の皆さん

山口パイロット団長発言
この解雇は整理解雇ではなく指名解雇である。
JALは私が入社してから事故で七三一名の犠牲者を出している。安全運航確保のために声を出さないとJALには先がないと真剣に思い頑張ってきた。ものを言うから切るといふのは七三一名の犠牲者を出している会社のすることではない。

◆ 支える会柚木事務局連副議長
企業には雇用と暮らしを守る責任がある。JAL争議を放置することは首切り自由を許すことになる。解決して安心して働く、利用者から信頼されるJALになつてほしい。

◆ 清岡支援共同代表（全労連副議長）
JAL解雇争議を解決しに声を出さないとJALには先がないと真剣に思い頑張ってきた。JAL解雇争議を解決しに声を出さないとJALには先がないと真剣に思い頑張ってきた。

＊団長発言の後、争議団員二人から一〇年の思いを述べました。
約一五〇名の参加者でした。
新橋駅のホームからもよく見える広場での宣伝はアピール度も抜群で、行き交う人に訴えました。ビラを配布することができました。

【矢上議員（立憲民主党）が内閣に提出の質問主意書に回答】

支える会通信四二号でお伝えした立憲民主党矢上衆議院議員からの質問主意書に対し、内閣からは「お尋ねについては、日本航空株式会社における雇用関係にかかる問題であ

ることから、同社において適切に対処すべきものと考えている。」という回答がありました。これは、政府は、日本航空が一六五名の解雇争議について、適切に対処していないと認めたことです。今後も有志議員によりヒヤリングなどを行い、JALの責任を追及してくださることです。

議員ヒヤリング第二弾！

JAL解雇争議に関するヒヤリングへの参加要請

新型コロナの感染拡大で「緊急事態宣言」が発令され、感染の収束が見通せません。航空業界では国際線の大幅な運休と国内線での減便が余儀なくされ、貴社におかれても深刻な影響が出ているものと推察致します。

さて、こうした状況下ではありますが、貴社で解雇された165名の労働者の争議は11年目に入りました。長引く争議は労働者の権利や人道上の問題だけでなく、航空の安全への影響も懸念されるところです。

貴社の争議については、昨年11月26日に貴職並びに人事・労務責任者のご出席を求めてヒヤリングを実施したところですが、再確認いたしたい点がございます。そこで、再度「ヒヤリング」を設ける予定ですので、ご参加いただきたく要望いたします。

ご多忙とは存じますが、下記までご連絡いただきますようお願い致します。

自由民主党 江崎鐵磨議員 山本朋広議員
立憲民主党 福田昭夫議員 早稻田ゆき議員 真山勇一議員(参議院)
日本共産党 穀田恵二議員 高橋千鶴子議員
社会民主党 福島瑞穂議員(参議院)
無所属 芳賀道也議員(参議院)

昨日一月二六日
に有志議員一名に
よりJALからのヒ
ヤリングが行われ
ました。
しかし、対応が不
十分だったことから
再度上記の有志議員
が植木会長と赤坂社
長宛にヒヤリングへ
の参加要請文を送付
しました。

二月一〇日、会社
からは「コロナ禍で
テレワークをしてい
る。決算時期でもあ
り社内でまとまつ
いない。まとまつ
ら再度連絡します」
との連絡が入つたそ
うです。

植木会長、赤坂社
長は真摯に対応して
ください。

「の？」と言われ、子供の心も傷つけた。

旅客とは運命共同体、安全のため労働条件向上のため、誇りを持って戦っていた。それを憲法違反までして解雇した。解決まであきらめない！

12月21日
本社前で争議団
が訴え！

不当解雇から丸一〇年を前にした一二月二一日、沢山の争議団員で赤坂社長に思いを訴えようと本社前に二九名を

・希望退職応募年齢を四五歳以上としたことからも組合潰しを感じ直感した。二〇一〇年一一月時点で社内はすでに上場準備室が立ち上がり、一二月段階で債務超過は解消されていた。不当な解雇だったことは明らか。

*他に、東京全労協寺嶋事務局長、全労連仲野幹事、C C U前田執行委員、乗員組合飯田副委員長、郵政ユニオン日卷委員長、J M I T U大岡委員長から御挨拶がありました

者の分まで訴えた。安全に
対してのを言つてきた。そ
れはコツクピツトからの警告
ライトだ。争議解決は私たち
の雇用だけの問題ではない。
会社に、政府に 対してものを
言つていかなければならぬ
い

A protest banner with Japanese text. A person in a dark coat and a mask is standing behind the banner, holding a yellow sash with the text '議団和波' (Gidantawaba) and 'コロナ' (Corona). The banner has text in red, yellow, and black. The red text on the left says 'JAPAN 連合会議' (Japan Conference of Unions). The yellow text in the center says 'は赤坂社説を' (Is赤坂社説を) and 'だけ早く' (Only quickly). The black text on the right says '議団和波' (Gidantawaba) and 'に言ひ' (Say). The sash also has '議団和波' and 'コロナ' on it.



◆ 乗員争議団和波さん



12月21日 本社前で訴える争議団=共闘会議ニュースより

早く解決して新たな気持ちで新年を迎える。

・仕事が好きで定年まで働きたかったのに悔しい。履歴書は整理履歴書かれていて、これをなくしたいと一年闘っている年内はまだ一〇日もある。解決の決断をしてほしい。

*各自の訴えの後、両団長と争議団員は年内解決を本社に要請しました。

【二二月二六日】
J A L解雇撤回愛知の会も名古屋駅前で宣伝行動を実施、争議団が参加できませんでしたが、九名が参加しました。

★支援の皆様に感謝申し上げます。

クリスマス宣伝@蒲田&横浜&愛知

蒲田駅東口前広場にて大田実行委員会主催でクリスマス・イブ宣伝が行われ、七四名が結集し、サンタクロースとトナカイの帽子を被つてアロー ルしました。

【二二月二】